

ごあいさつ



阿蘇・菊池・山鹿ブロック大会
実行委員長 中村 浩

第63回熊本県図画工作・美術教育研究大会（阿蘇・菊池・山鹿ブロック）のWEB開催ができますことを心から感謝申し上げます。本研究大会は、令和2年度に菊池市内の幼保・小・中学校を会場に開催する準備を進めてきました。

しかし、コロナ禍の中、令和2年度の開催は中止。令和3年度への延期となりました。研究大会実施に向けてどのような形で開催するか県本部と実行委員会にて協議しました。結果、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たないと判断し感染状況に左右されずに開催できる方法としてWEB開催で行うことを決めました。WEB開催を決定した理由は、通常開催をした場合、多数の方が参集することや公開授業をするために他校の児童生徒を会場に輸送しなければならないなどのリスクが考えられました。そのリスク回避が一つ目の理由です。二つ目に熊本県図画工作・美術教育研究会のホームページが新たに立ち上げられたことです。その活用の充実を図り、たくさんの会員の方が閲覧できる環境を整えることで研究の広がりが期待できると考えました。

開催の準備にあたっては、組織の簡素化、実行委員会等会議回数の絞り込み、オンライン会議の実施等、今だからこそでできる形で行いました。その一方で実践や授業公開をしていただいた先生方との十分な打ち合わせが行き届かない点もあったかと思えます。ですが、それぞれの先生方が課題意識をもって取り組んだ成果が見える確かな研究となりました。

さて、本研究大会では、「つなぐ・つながる造形教育」を主題にし、これまで継続して研究を進め、「つなぐ・つながる」の定義を次のように示してきました。

- 「つなぐ」とは、教師が子どもと対象を結び付けて造形活動を設定すること
- 「つながる」とは、その中で子どもが主体的に他者や他のものとのつながり、造形力を高め豊かな心を培っていくこと

つなぐ・つながる造形教育を通して美術作品をはじめ教師と生徒、友だち同士、地域社会等との「つながり」が深まることが期待されます。

阿蘇・菊池・山鹿ブロックでは、大会テーマに加えサブテーマとして「色・形に思いをのせて」を設定しました。伝えたい思いや願いを色や形にする表現活動と作品の色や形から作者の思いや願いを感じ取る鑑賞を通してつながりあえる造形教育を目指すこととしました。そして目指す子どもの姿として次の5つの視点を掲げました。

- 自分で感じたこと、表したいことを表現できる子ども
- 話しながら発想し、表し方を工夫する子ども
- 試しながら発想し、表し方を工夫する子ども
- 作品に対する自分の見方や感じ方を深める子ども
- 創り出す喜びを味わい、楽しく豊かな生活にしようとする子ども

本研究を通して子どもたちが大きく成長し、つなぐ・つながる、姿の変容が見られることを願っています。

最後になりましたが、本研究大会を開催するにあたりご協力、ご支援いただいた関係機関の皆様、心から感謝申し上げます。本研究大会が参加された先生方の指導力向上につながりこれからの図画工作・美術教育が益々、発展することを祈念申し上げ、大会実行委員長のご挨拶といたします。